

あの、実践マッドサイエンス入門でおなじみの、D・キツチュが大ピラミッドの謎に迫る！
果たして、それは実在するのか？
ピラミッドと酒まんじゅうの関係は？
謎が謎を呼ぶ、ミステリアスゾーンを、D・キツチュが詳細にレポートした！

ひよんな事から、わが家の近くに、筋金入りのマッドサイエンティスト一家がいることを知り、早速取材にでかけた。場所は、山梨県の太月市、梁川町という所であり、その名も、

『ピラミッド瞑想センター アクリアンハウス』

というものである！
ところで、ワシの研究所兼住み家は、この隣の鳥沢というところで、大変に近い。なぜ、今まで気が付かなかったかと言えば、やはりマッドサイエンティストたるもの、俗世間の現象とは、ほれ、一線を画している所があるじゃろう、そういう訳で、今までワシのご近所は気にも掛けなかったのじゃ。それが、どういう具合か、このたび縁あって、ここへの見学を決意したのじゃった。



JR東日本・中央本線の梁川駅

・・・ここが、このミステリアスなセンターへの玄関となる駅の名前である。いや、そんなに遠い所ではない。新宿から、各駅電車（あの、青いヤツ）で1時間30分ほど、高尾駅から25分の所である。



この写真が、その梁川駅の駅舎である。ここは、全くの無人駅であり、隣の鳥沢駅が、その管理運営をしている、まことにローカル色豊かな、のどかなたたずまいである。



だが！安心してはいけない！

ワシが隣の町に住んでいるという事を考えても、この、ほのぼのとした、田舎の風景の裏側に、マッドサイエンスの大きなうねりが厳然と存在しているかもしれないのじゃ！

さて、もしキミが、「本当のマッドサイエンス」に興味をもった、向こう見ずのアウト郎で、向学のため、ぜひとも、ここを訪れたいと思っているのなら、このセンターへ行くための、ちょっとしたコツを教えよう。まず、駅舎を出るとすぐに国道20号線にでる。そのまんに、一軒のタバコ屋がある。キミはこの店に入り、店のバアサンに向かって、こう言うのじゃ。「あの、この辺にピラミッドがあるって聞いたんですけれども。」

”ピラ”と”ある”にアクセントをとって言えば、多分通じるじやろう。そうすれば、バアサンは、「おうおう、あんた、東京から来たかね。雑誌の取材かえ？」

と、このように答えるようプログラムされておる。なんとなく、「その業界の人」風を装えば、思わず気分はマッドサイエンティスト。やはり、マッドするにも最初が肝心。このように、他愛のない会話をすることで、これから訪問するマッドなセンターへの心がまえが出来るというものじゃ。なお、このとき、ガムくらは買って上げるのがエチケットというものである。

さて、バアサンとの会話で、心がまあと、センターへの道順を聞いたキミじゃが、おや、前方に、何やらピラミッドらしき建物が・・・！ここで、キミは期待と不安で心拍数を上げながら、センターへ急ぐかもしれないが・・・

「修行が足らん！」

まず、ゴルゴ13よろしく、あたりの観察をするのが、これから世界征服をしようとする、正しいマッドサイエンティストの取るべき態度である。すると・・・

・・・ほーら、いろいろな物があるではないか！

ワシの目にまず入ってきたのは、何やら赤い物体であった。

そう、それは、長さ百位の赤い飛行船ではないか！これが、田んぼの脇に、篠竹にくくり付けられて置かれている。この、さり気ないハイテクさに、ワシはこの村が、ひょっとしてマッドサイエンティストの隠れ里ではないかと疑い始めていた。



Dr. キッチュ

ピラミッドの謎に迫る！

さらに道を行くと、道の脇に看板が立ててある。

「ピラミッドの手作り酒まんじゅう

アケリアンハウス」

おおお！これこそ、ワシがたずねて来た、そのピラミッド瞑想センターではないか！
この、ピラミッドと酒まんじゅうという、一見なんの関係もない物を、関係無いままに結び付けている所が、すでにマッドしている。



いやいや、こんな看板に驚いてはいられない。さらに、ワシは道を進んで行った。前方の視界が開け、ワシの網膜に、銀色の四角錐が焼きついていた。



ワシの予想を遙かに上回る偉容でそれは迫って来た。たんぼのまん中にそびえ立つそれは、底辺の長さ約15m、高さ約10m程の、まぎれもないピラミッドであった。

さらに、ワシの目に、何か動くものが写った。どうも、人影のようである。ワシは、この人影に対し、第3種接近遭遇を試みることにした！

ワシは、ピラミッドのそばで焚き火をしている人物に近付き、話しかけた。

「これが、そのピラミッドですか。」

「ええ、まあ、これも一つの事業みたいなものですがね。」

そう言いながら、(なんと、日本語が通じた)その自称会長の弟(義理)という人物は、事のあらましを語り始めた。

このピラミッドの建造は、今を遡ること5年前、1983年からスタートしたものだという。当時、郵便局に勤めていたオーナーは、彼の弟(これが会長)の影響を受け、ピラミッドパワーをいろいろと実験し始めた。オーナーの弟(会長)は、何でもESP等の超心理学研究関連の仕事をしていたのだという。

実際、ワシの部屋にもピラミッドの模型があるが、やはりピラミッドには何らかのパワーがあり、この元郵便局員は、疲れが取れる、気分が爽快になる、という事で、すっかりピラミッドの虜になってしまった。これは、地元新聞にも載っていたので、ワシも覚えていたのじゃ。

さて、このオーナーには、幸か不幸か土地と財産があった。これを利用し、大ピラミッド瞑想センターの建造に着手したのである。

「しかし、途中で資金が足りなくなり、こうして酒まんじゅうなどを売っているんですよ。でも、外側はだいぶ出来上がりでしたがね。」

そう言いながら、彼はピラミッドを見上げた。ワシもつられて見上げてみると、ピラミッドの頂上で何かキラッと光るものがある。

「あれはなんですか?」
とワシが質問したとき、彼の目に不敵な微笑みが浮かんだ。(つづく)

Dr. キッチュ

ピラミッドの謎に迫る!

「・・・なんてね！ ビックリしたかね？ では、つづきを。（実は、この話は、つきなみCOMICSのパールBBSネットワークに掲載された連載物で、毎回、このように盛り上がった所で「つづく」としていたのじゃ）」

「あれは、エネルギーを集めるためのアンテナですよ。あそこに、水晶球が7個ほどセッティングされていて、ピラミッドにパワーを供給するんですよ。」



「ちょっと、写真をとってもかまいませんか。」

これがその時の写真である。ちょっと、分かりにくいかもしれないが、ピラミッドの先端に確かにアンテナがついている。

「ええと、良かったら中も見せていただきますんですけど。」

「ええ、構いませんよ。」

ワシがピラミッドの入り口（なぜか北側にあ

る）に向かって歩いて行くと、道の向こうからバンがやって来た。ボディにはアケリアンハウスのロゴが入っている。バンはピラミッドの入り口近くに止まり、中から2人の人影が降りた。

「ああ、オーナーが帰って来た。」

こうして、ワシははからずもオーナーと対峙するハメになったのである。

オーナーは、痩せぎすの浅黒い顔に、汚れたうす水色のツナギを着、金色のマークの入ったキャップをかぶっている。

「あ、この中を見学してかまいませんか？」

というワシの問いかけに、オーナーは軽く首を縦に振って答えた。

北側の階段を下ると、正面にコンクリートの壁があり、更に上と下に通じる階段がある。中はヒンヤリとして、普通の建築物とはどこか違う雰囲気が出ている。

「トゥワライトゾーンを見て来たのか？」

不意の問いかけにドキッとして振り返ると、オーナーがニヤニヤしながらワシを見つめていた。

「いや、違います。実は、私はこの近くに住んでいるんです。この話は前から聞いていたので、たまたま今日、来てみようかと・・・」

「ほう、この近く。どこだ？」

「あの、鳥沢ですよ。」

「鳥沢のどこだ？」

「堀之内の、あの、大工のセガレですよ。」

「達ちゃんのセガレか!？」

驚くべきことに、このオーナーはワシの父の幼なじみだったのである！

うーむ、類は友を呼びまくるというか、なんと言うか・・・オーナーがワシの父の幼なじみだったとは・・・その衝撃も冷めぬうちに、さらにオーナーは次の心理攻撃を仕掛けてきた。

「ヒランヤって知ってるか？」

「・・・、な、名前は聞いた事ありますけど・・・」

ヒランヤとは、どうもダビデの星と同じ六角形の紋章であり、マジカルパワーの象徴、精神パワーの総体を指し示すキーワードらしい。

この、一介の農夫のようなオッサンから発せられたヒランヤという言葉は、まさしく魔法の呪文のように、ワシをパニック状態に陥れた。動揺したワシが、オーナーのかぶっている帽子をふと見ると、そこにはヒランヤのマークが！ さつき、金色の模様としか認識していなかったそれは、まさしくヒランヤの紋章だったのである！

マズイ！ なんとかして話題を変えないと。

「こ、ここはどんな構造になっているんですか？」

話題の切り返しで、なんとかワシはパニック状態を脱した。オーナーによれば、このピラミッドは、4層構造になっており、地下1階がコン

Dr. キッチュ **ピラミッドの謎に迫る！**

ピューター室（何やらゲーム的音楽が聞こえてきた）、地上1階が多目的ホール、2階が瞑想室、3階がヒランヤパワーを体得する所らしい。しかし、ここはまだ完全に完成しておらず、工具や建築材がバラバラと散らかっている倉庫の様相を呈していた。

「どうだ、せっかくだから昼寝でもしていくなか？」

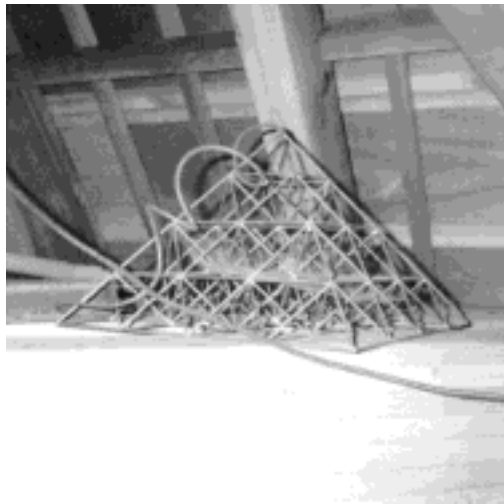
「え？」
はじめ、オーナーが何を言わんとしているのか、よくわからなかった。しかし、ワシのブレインは一つの分析的解釈をひねりだした。

オーナーはワシに瞑想を勧めているのである！

という訳で、ワシは、オーナーに勧められるまま、瞑想したり、ピラミッド内の説明を受けたのじゃ。

また、ここで扱っている、「パイレイ」なる、ピラミッドエネルギー関連の機関誌やら、酒まんじゅうなどを買い求めた。この雑誌の発行元

は、八王子市なので、興味ある者は集会などに出席してみるのもよからう。しかし、ワシは、サイエンスには興味あるが、新興宗教には興味ないので、これ以上の深入りはご免させてもらう。



大ピラミッドの中にあつた、ワイヤーフレームによる、ピラミッドの模型。
シンチュウ棒をハンダにて接合している。
大きさは、底辺が50cmくらい。
頂上から出ている電線は、このピラミッドから発生するエネルギーを集めるためのもの。
この中に、クモが巣を張っているが、その位置に注目。ちょうど、模型のピラミッドの高さ1/3の所にあることがわかる。
ピラミッドエネルギーは、この、高さ1/3の点に集中しやすいという報告が、多くのピラミッド研究家から出されている。あの、ギセーのピラミッドの、王の棺の置かれている玄室も、この高さ1/3の点にあることは有名な話。
また、この写真のクモの巣は、大ピラミッドの場の影響のためか、水平ではなく、外側に向かって傾いていた。



さて、いかがじゃったかな？ なかなか近所にも、マッドサイエンスのネタは転がっているものじゃ。

諸君も、ワシにみならって、キミの町のどこかに必ずいる、マッドサイエンティストとオトモダチになり、なお一層マッドサイエンスを追及していただきたい。 それでは！